

サンケイビルのミッドサイズオフィス戦略が始動！

成長を目指す企業のオフィスニーズを追求

フジサンケイグループの都市開発事業を担うサンケイビルが、「ミッドサイズオフィスビル開発事業」を始動させた。

東京都内で開かれた「事業戦略記者発表会」では、新ブランド「S-GATE（エスゲート）」のコンセプトや概要が紹介されるとともに、トークセッションを通し、

ミッドサイズオフィスに対する成長企業のニーズの変化や、オフィスが生み出すビジネスへの効果などが語り合われた。

ミッドサイズ
オフィスビル
S-GATE



成長企業のニーズに対応

今オフィスには、デザインや機能性、環境性が特に求められ、多様な人材が知的生産性を高められる、より戦略的な空間へのニーズが高まっている。このためオフィス性能にこだわり、快適性、安心・安全・環境性、BCP、ソフト面でのテナントサービスを充実させたのがS-GATEだ。

東京都心5区を中心に展開

第一号物件は15年夏に赤坂に竣工予定で、東京都心5区のJRや地下鉄の主要駅近くを中心に、シリーズ展開する計画だ。サンケイビルは、S-GATEを通して企業の「事業力」「人材力」「ブランド力」を高め、ビジネスの成長をサポートしていく。

公式HP www.s-gate-office.com



大江 匡氏
建築家／株式会社プランテックアソシエイツ代表取締役会長兼社長。主なプロジェクトに「ソニーシティ」「日産グローバルデザインセンター」など多数



夏野 剛氏
NTTDコム時代に「iモード」「おサイフケータイ」などのサービスを立ち上げる。現在は慶應義塾大学特別招聘教授の他、多数の企業で取締役を兼任

オフィスで変わる
社員のモラルや士気
夏野 成長企業にとってオフィスというのは非常に重要で、社員にとってはお金も大事だけれど、それ以外に多様な価値観を持っていて、特にワークスタイルをとっても大切にするんですね。ですから、彼らは感性や価値観に合ったオフィスに入ると、士気もモラルも上がってくる。給料を上げるよりも、オフィスを移転する方が断然効率上がる、そうした例を何度も見えています。ただ、そうしたポリシーのしっかりしたミッドサイズのオフィスは、あまりないんですね。

大江 社員の士気という点、ある自動車部品メーカーのオフィスを設計したことで、社員の歩くスピードが変わったと言われました。それまで、た

らたら歩いていたのがさっさと歩くようになった。これには後日談があった。海外の大きなメーカーの仕事が取れたとき、先方から「オフィスのデザインを見てあなたの会社に決めた」と言われたそうです。オフィスが営業をしてくれたとお礼を言われました。

飯島 まさに、オフィスは会社の顔として非常に重要です。当社も新しいビルへ移転する時、社員たちがアイデアを出し合い、自分たちが納得できるオフィスにしたところ、お客さまの数が2・5倍に増えました。社員がプライドを持てる、そんなオフィスがこれからはますます必要になりますね。

夏野 そういふなかでは、想像力というのが非常に大事で、そこで働く人の生活をイメージできないというオフィスはひと目で分かります。たとえばITの成長企業なら、オフィスのレイアウトをよく変えるので、室内に柱の出ないアウトフローム構造は理想的です。そうしたことはターゲットを絞って、きちんと調査すれば簡単に想像できるんですね。ですから、設計者と施主が一体となってターゲットを明確に絞り、そこで働く人をイメージすることが重要です。

大江 成長企業がずっとたどっていきける品質・サービス・バリエーションがあれば、S-GATEに入る企業は、将来もS-GATEの顧客になるでしょうね。

飯島 私たちも、徹底してクオリティを追求していきたいと思います。

「企業の成長とオフィス戦略、はたらく人にとってのオフィス」とは



株式会社サンケイビル
飯島 一暢社長

三菱商事、フジテレビジョンを経て、2012年、サンケイビル代表取締役社長就任。13年からクールジャパン機構会長も務める